

平成28年度 基本評価調書

施策名	北海道独自の歴史・文化の発信と継承	所管部局	環境生活部	作成責任者	環境生活部長 小玉 俊宏	施策コード	03	14
		照会先	文化振興課調整グループ 011-204-5208(内24-404)	関係課	文化振興課			

Plan 施策推進計画 (目標管理型行政運営システム実施要領 別紙様式1)

1 目標等の設定

総合計画等の位置づけ	総計	大項目(分野)	中項目(政策の柱)	小項目(政策の方向性)	総合計画の指標		
		3 人・地域	(4)ふるさとの歴史・文化の発信と継承	北海道独自の歴史・文化の発信と次代への継承		北海道博物館の利用者満足度	
	北海道創生 総合戦略	A4212	北海道 強化計画	新・北海道 ビジョン	C00111,C00507,C02713,C08101,C08201,C08202,C08203,C08204,C08305,C08404		
	特定分野別 計画等	北海道文化振興指針、北海道博物館基本計画					
現状と課題	<p>・個性豊かな土偶や漆工芸を生み出した北海道と北東北3県(青森・秋田・岩手)に所在する縄文遺跡群について、早期の世界遺産登録に向けての取組を推進するとともに、道民の理解を深め、さらなる気運の醸成を図る必要がある。</p> <p>・人々の生活意識や価値観の多様化などにより、物質的・経済的な豊かさだけでなく、日常の暮らしの中にゆとりや潤いといった心の豊かさが一層求められるようになり、文化に対する関心や期待の高まりがあることなどから、本道固有の歴史や様々な民俗芸能・生活文化などを継承、発信する取組を推進する必要がある。</p>			施策目標	<p>・「北海道・北東北の縄文遺跡群」の早期の世界遺産登録に向けた取組を推進するとともに、北の縄文道民会議と連携した事業の実施など官民一体となった道民運動を展開する。</p> <p>・多言語で作成した映像や、新たに作成する冊子などにより、情報発信の強化を図る。</p> <p>・北海道博物館を核として地域の博物館などとも連携し、本道の固有の歴史や道内各地の様々な民俗芸能・生活文化などを次世代に継承し、発信する取組を推進する。</p>		
施策の推進体制 (役割・取組等)	<p>【縄文】 〔縄文遺跡群世界遺産登録推進本部〕・・・4道県及び14市町</p> <p>・推薦書原案の改訂、国への提出</p> <p>・国内フォーラム開催、国際的合意形成の促進 〔道及び北の縄文道民会議〕</p> <p>・パネル展、セミナー等普及啓発事業 〔道〕</p> <p>・普及啓発事業や情報発信の強化 など</p>			<p>【ふるさとの歴史・文化】 〔道〕</p> <p>・資料の収集、保存、展示(総合展示室の運営、魅力的な企画展示の開催)</p> <p>・北海道の自然・歴史・文化の調査研究、アルバータ州等との共同研究の推進</p> <p>・魅力あるイベントの開催や教材の充実による教育普及事業の実施 〔市町村〕</p> <p>・北海道博物館は研究課題に応じて市町村と連携</p>		施策の予算額	
						H27	512,061
						H28	559,768
H29							
今年度の主な取組	<p>【縄文】</p> <p>○世界遺産登録に向けた推薦書案作成</p> <p>○国際的合意形成事業の実施</p> <p>○縄文文化に係るパネル・出土品の展示、普及啓発資料配布</p> <p>○縄文文化に係るセミナー・フォーラムの開催</p> <p>○縄文文化の持つ特徴やその意義、価値の大きさを、新たに作成する冊子等により国内外に広く発信する</p>			<p>【ふるさとの歴史・文化】</p> <p>総合展示の計画的な入替や、特別展(H28テーマ:ジオパーク)、テーマ展(アイヌ民族、海岸漂着物)の実施</p> <p>北海道の自然・歴史・文化を気軽に学ぶことができる、子ども向け・初心者向けの体験イベントなどの実施</p> <p>資料収集方針に基づく、北海道の生成、自然、歴史、文化に意義を持つ資料の収集</p> <p>収集資料の適切な整理・分類・登録・配架、データベース管理による活用による促進</p> <p>貴重な資料の適切な保管のための、収蔵庫の適切な温湿度管理、IPM(薬剤のみに頼らない、環境に優しい安全な資料保存方法体制)による虫菌害防除対策等の徹底</p> <p>北海道の自然・歴史・文化などに関する専門的な調査研究、類似した地理的環境にあるアルバータ州等との自然・歴史・文化に関する比較研究の実施</p> <p>北海道博物館赤れんがサテライトについて、誘導力のある展示への改修や、道内博物館の情報も含めた情報発信機能強化</p> <p>北海道ミュージアム構想の推進に向けた検討の実施</p>			

1 - 2 取組の結果

(1) 主な取組の実績と成果		(関連する計画等)		
実績と成果等		総合戦略	強靱化	ビジョン
1	総合展示の入替を、平成27年度は35件、平成28年度は7月末日までに7件実施した。また総合展示内でテーマを決めて入れ替えるクローズアップ展示は、平成27年度は16件、平成28年度は7月末日までに13件実施した。特別展は平成27年度に博物館連携、企業連携による「夷酋列像」展を、平成28年度に道内の市町村との地域連携による「ジオパークへ行こう！」展を開催しているほか、次年度以降に開催する特別展の内容について検討している。「夷酋列像」展は来館者51,046人を数え、「ジオパークへ行こう！」展は多くの家族連れが訪れ、現在順調に来館者が増加している。企画テーマ展は、平成27年度4回、平成28年度1回の計5回開催した。北海道の自然・歴史・文化に関する最新の研究成果の公表や収蔵資料の新規公開、歴史的に重要な資料の公開を行った。			C08201、C08305
2	夏休みや冬休みを中心に小学生とその家族を対象として、ものづくりや体験が出来る講座を行う「ちゃれんが子どもクラブ」、羊毛を使ったマスコット作りなどはっけん広場で簡単なものづくり体験ができる「はっけんイベント」、全ての人を対象として、ものづくりや自然観察など体験型の講座を行う「ちゃれんがワークショップ」、等を計画的に開催したほか、調査研究成果を活用した講座・講演会や、学校など団体向けに総合展示の見どころなどを学芸員が解説する「グループレクチャー」等を実施した。イベントについて、平成27年度は合計25,076人、平成28年は6月時点の集計で2,294人(集計済みのグループレクチャー分のみ)の参加を得ている。			C08201
3	資料収集方針に基づいて、資料審査会を開催して資料収集を実施し、調査・整理・分類・登録作業を進めている。平成27年度に北海道開拓記念館と北海道立アイヌ民族文化研究センターとが統合し、資料管理も一元化をはかった結果、収蔵資料が約18万件(北海道開拓記念館約166,000件、北海道立アイヌ民族文化研究センター約14,000件)を超える点数になった。平成28年度は、貴重なコレクション資料を受け入れるための準備作業を進めている。			
4	平成27年より継続的に資料の展示公開・貸出、資料画像の提供、特別観覧など収蔵資料の活用公開を進めてきている。収蔵資料データベースのシステム更新を実施し、北海道開拓記念館及び北海道立アイヌ民族文化研究センターの資料情報システムの一元化作業を進めている。			
5	収蔵庫および展示室の適切な環境管理をするため、博物館と指定管理者による資料収蔵環境管理等に関する連絡会議を毎月開催し、収蔵環境の温湿度データの確認と検討を実施した。IPM関連の作業として、捕虫トラップ設置による調査、収蔵庫内の微生物汚染を確認するための落下菌調査、特別展示室と収蔵庫空気質調査などを定期的に実施して、展示及び収蔵環境の維持に努めている。			C08202
6	カナダ・アルバータ州のロイヤル・アルバータ博物館及びロシア・サハリン州のサハリン州郷土博物館との共同研究事業の調印に向けて、研究テーマの設定やメンバーの選定を行った。平成28年2月にサハリン州において、共同研究事業「北海道とサハリン 共通性と特殊性」に調印し、同年3月にはアルバータ州において共同研究事業「寒冷地の自然と適応 - 博物館交流で育む亜寒帯地域の学際的研究 -」に調印した。平成28年度から、研究者を相互派遣し、調査研究を計画的に実施している。			C08201
7	平成27年7月に北海道博物館の紹介及び道内博物館の情報発信機能を持つ空間として「北海道博物館赤れんがサテライト」を開設した。平成28年3月には北海道博物館の紹介映像の設置を行ない、同年4月には、特別展「ジオパークへ行こう！」のPR映像の追加を行ない、充実をはかった。			C08201、C08204、C08404
8	北海道ミュージアム構想の推進に向けて、北海道博物館等の今後のあり方について検討を行う、「百年記念施設あり方検討会議」を平成27年1月に設置、これまで2回会議を開催して検討を進めるとともに、有識者の声を聴く「(仮称)北海道歴史文化施設に関する懇談会」の設置に向けて準備を進めている。また、構想を進めていくための推進プランについて、検討を行っている。			C08201、C08202、C08203、C08204
	平成27年5月から、北海道歴史・文化ポータルサイト「AKARENGA(あかれんが)」を立ち上げ、道内の歴史文化や芸術文化施設、芸術文化イベント、本道ゆかりの作家などの情報を発信している。また、平成27年2月、北の縄文文化及び道内の地域文化の魅力を紹介する映像「カルチャーガイド北海道」を多言語(日本語、英語、中国語(簡体・繁体)、韓国語、ロシア語)で制作し、同年4月から同サイトで発信している。			C00111、C00507、C02713
	早期の世界遺産登録を目指し、関係県、市町と共同で推薦書案を作成するとともに、有識者を招いたフォーラムや「北の縄文道民会議」と連携したパネル展やセミナー等の普及啓発事業を実施するなど情報発信を行った。・フォーラム3回(H27年度2回、H28年度1回)・パネル展7回(H27年度5回、H28年度2回)・セミナー15回(H27年度10回、H28年度5回)・啓発イベント3回(H27年度1回H28年度2回)	A4212		C08101
(2) その他の取組の成果等				
国等提案・要望状況	縄文遺跡群の世界遺産登録に向けた早期推薦について、4道県知事・副知事が国会議員連盟と合同で、文科大臣、文化庁長官に対して要望を行った。(平成28年4月26日) ・平成29年度国の施策及び予算に関する提案・要望(全庁要望・環生部要望)(平成28年8月4～5日)	施策に関する道民ニーズ	【意見】 ・隣接する開拓の村との連携を十分に取るべき。博物館と開拓の村を結ぶシャトルバスがあると便利。(平成27年4月18日 総合展示アンケート回答、札幌市在住、60代後半男性) ・「北海道博物館」を名乗るならば、恐竜やアンモナイトなどの情報も紹介すべき。(平成27年4月18日 総合展示アンケート回答、札幌市在住、30代男性)	
			【取組】 ・平成27年度は、9月20日～23日の期間に、博物館・開拓の村・記念塔前駐車場を結ぶ無料シャトルバスを運行。平成28年度は、4月29日～5月1日、5月3日～5日の期間にシャトルバスを運行。 ・平成27年度に道民参加型展示としてアンモナイト化石紹介展を実施。28年度特別展「ジオパークへ行こう！」(会期:7月9日～9月25日)で、恐竜やアンモナイト化石などの展示を実施した。	

Plan 施策推進計画 (目標管理型行政運営システム実施要領 別紙様式1)

Do & Check 施策評価

2 連携の状況

2 - 2 連携の取組状況

総合計画の位置付け	連携内容	連携先		取組の実績と成果
		施策コード	関係部・関係課	
	世界遺産登録に向けた推薦書案作成、縄文文化に係るパネル・出土品の展示、縄文文化に係るセミナー・フォーラムの開催等や北海道立総合博物館の事業実施等にあたっては、必要に応じて教育庁文化財博物館課やアイヌ政策推進室と連携。	N0313	環境生活部アイヌ政策推進室	・北海道博物館「赤れんがサテライト」における「縄文文化」の展示や、北海道博物館での広報など、教育庁や縄文世界遺産推進室と連携した取組を進めている。 ・平成27年度は、「アイヌ語録音資料のデジタル化事業」(文化庁事業)で、教育庁やアイヌ政策推進室と協議し、道所蔵の資料についてまとめ。28年度は、教育庁がこれまでに発行してきたアイヌ文化に関する調査報告書のデータを、北海道博物館アイヌ民族文化研究センターにおいて整理を進め、インターネット上で情報を公開するための準備作業を進めている。 ・北海道博物館に北海道博物館協会事務局を置き、教育庁と協力しながら北海道の中核的博物館の役割を担う取組を進めている。 ・北海道立総合博物館協議会を開催し、文化振興課やアイヌ政策推進室と連携のもと、課題の共有と解決を図っている。 ・教育庁文化財博物館課と連携し、世界遺産登録に向けた推薦書案を作成するとともに、4月と7月に縄文文化に係るパネル・出土品の展示及び縄文文化に係るセミナーを開催した。
		N1110	教育庁生涯学習推進局文化財・博物館	
I	北海道150年事業ワーキングチームに参画し、北海道の歴史・文化・芸術などに関する政策課題の対応を行うとともに、関係部局と情報の共有を図る。	N0214	総合政策部政策局	北海道150年事業ワーキングチームに参画し、関係部局と連携し、北海道の歴史・文化・芸術などに関する政策課題に取り組んだ。

Plan 施策推進計画 (目標管理型行政運営システム実施要領 別紙様式1)

Do & Check 施策評価

3 成果指標の設定

3 - 2 成果指標の達成度合

主	主要指標名(単位)	目標の基準		今年度の目標		最終目標		達成度合	A	評価年度	H27	達成度合の分析 ほか
		基準年度	H25	年度	H28	最終年度	H37					
北海道博物館の利用者満足度		基準年度	H25	年度	H28	最終年度	H37	達成度合	A	評価年度	H27	総合展示の運営や魅力的な企画展の実施等の諸活動に取り組んだ結果、総合展示での手で触れられる「ハンズオン展示」など来館者を楽しませる工夫や、北海道全体を学ぶことができる、わかりやすい展示構成や解説の導入、「夷酋列像」など企画展示の取組などに来館者から評価が寄せられており、満足度の向上に繋がっている。
		基準値	65.8%	目標値	70.0%	最終目標値	80.0%	年 度	H27	H28	進捗率	
北海道博物館の利用者に対して行うオーディエンスリサーチ(利用者調査)で、施設全般に関して「満足」と回答した人の割合	北海道総合計画	根拠計画		増減方向		達成率の算式		目標値	70.0%	70.0%	80.0%	
				増加		$\frac{(\text{実績値}) - (\text{基準値})}{(\text{目標値}) - (\text{基準値})} \times 100$		実績値	85.3%		85.3%	
								達成率	464.3%		106.6%	

本施策に成果指標を設定できない理由	判定	A	B	C	D	-	結果
	(直近の達成率(%))	100以上	90以上100未満	80以上90未満	80未満	算定不可	
	主要指標	1					
	関連指標						

Plan 施策推進計画(事務事業) (目標管理型行政運営システム実施要領 別紙様式2)

Do and Check 事務事業評価

4 事務事業の設定

4-2 事務事業の評価

業務目標の設定(P)											事務事業評価(C)												
H28 整理番号	指標	事務事業名	事務事業概要	課・局 室名	平成28年度					総合 戦略	強 靱 化	新・ 北 海 道 ビ ジ ョ ン	重 点 事 業	地 域 重 点	一次政策評価								
					事業費 (千円)	執行体制(人工)									フルコスト	重点点検事項					予算	サー ビ ス	方 向 性
						本庁	出先 機関	人工計	人件費							H27二次政策 評価意見	対応状況	連携事業 (整理番号)	終 期	推 進 事 項			
03100100		野幌森林公園 施設整備費 (施設建設事 業費)	野幌森林公園の施設改修等に 関する業務	文化振興 課	9,000	0.0	0.1	0.1	825	9,825								継続(現状維 持)	継続(現状維 持)	現状維持			
03100200		野幌森林公園 管理費	北海道博物館及び野幌森林公 園の維持運営のための業務	文化振興 課	4,198	0.1	0.6	0.7	5,772	9,970								継続(縮小)	継続(現状維 持)	縮小			
03100399		野幌森林公園 利用指導業務	野幌森林公園利用者の指導、 苦情対応、普及啓発、広報、 統計事務等	文化振興 課	0	0.0	0.8	0.8	6,596	6,596								-	継続(現状維 持)	現状維持			
03100499		野幌森林公園 許認可業務	道立自然公園である野幌森林 公園内における各種行為の申 請等に係る許認可等業務	文化振興 課	0	0.0	0.3	0.3	2,474	2,474								-	継続(現状維 持)	現状維持			
03100500	主	北海道博物館 事業費(情報 システム分除 く)	北海道博物館の展示事業、教 育普及事業等の実施	文化振興 課	8,514	0.3	18.7	19.0	156,655	165,169								継続(縮小)	継続(現状維 持)	縮小			
03100600		北海道博物館 事業費(情報 システム分)	収蔵資料データベースの管 理、HP閲覧システムの運用 経費	文化振興 課	4,757	0.0	0.0	0.0	0	4,757								継続(現状維 持)	継続(現状維 持)	現状維持			
03100700	主	地域文化発信 推進事業費	北海道の特色ある自然の魅力 の国内外への発信に向けた、 北海道博物館における特別展 の開催	文化振興 課	8,144	0.0	0.3	0.3	2,474	10,618								終了	終了	終了			
03100800		北海道博物館 試験研究費	北海道博物館の調査研究活動	文化振興 課	15,004	0.0	10.0	10.0	82,450	97,454								継続(現状維 持)	継続(現状維 持)	現状維持			
03100900	主	北海道博物館 管理運営費	北海道博物館(本館)、北海 道開拓の村、自然ふれあい交 流館の管理運営(指定管理業 務)	文化振興 課	345,748	0.7	2.0	2.7	22,262	368,010								継続(現状維 持)	継続(現状維 持)	現状維持			
03101000		開拓の村・百 年記念塔施設 整備費	開拓の村の維持管理運営等に 関する業務	文化振興 課	10,210	0.4	0.5	0.9	7,421	17,631								継続(現状維 持)	継続(現状維 持)	現状維持			
03101100		北海道博物館 費(施設建設 事業費)	北海道博物館塔屋の外壁改修 等	文化振興 課	34,677	0.0	0.1	0.1	825	35,502								継続(現状維 持)	継続(現状維 持)	現状維持			

5 一次評価結果

評価判定	成果指標の全体分析	施策全体に係る分析(具体的成果・連携状況)	判定
主要指標	<p>< 北海道博物館の利用者満足度 [A] > 平成27年4月に北海道博物館がリニューアルオープンし、入場者数はオープン1年目で、15万人を突破(151,594人)し、平成27年度の入場者数は149,046人でリニューアル前(H24 53,488人)から3倍近く増加している。増加した入場者の方々の満足度も増しており、事業効果が表れている。</p>	<p>施策全体に対して、漏れなく有効な取り組みがなされているか ・「ふるさとの歴史・文化」の発信と継承について、資料の収集、保存、展示や、調査研究を行うとともに、魅力あるイベントの開催等を実施しており、効果的な取組を推進していることが認められる。また、縄文文化の世界遺産登録に向けた取組も効果的に推進している。</p> <p>< 施策を推進するに当たり、国等に要望・提案を行い、実現に向けて進捗しているか > ・縄文遺跡群の世界遺産登録に向けた早期推薦について、国会議員連盟と合同で文部科学大臣に要望を行うなど、実現に向けて取り組んでいる。</p> <p>道民からのニーズを的確に把握し、施策推進に役立てているか ・博物館の利用者に対して、定期的にアンケートによる満足度調査を行うとともに、特別展や企画展の際も同様の調査を実施し、利用者のニーズの把握に努め、施策の効果改善に役立てている。</p> <p>施策を推進に当たり、他の施策、部局と連携した成果を確認できるか ・博物館の事業実施に当たり、教育庁文化財・博物館課やアイヌ政策推進室と連携を図り、連携した成果を確認できる。</p>	+ 評価
関連指標			

総合評価	概ね順調に展開	評価の要	指標の達成度合が順当であるため、評価は「概ね順調に展開」とする。
------	---------	------	----------------------------------

次年度に向けての課題と今後の方向性(対応方針)			(関連する計画等)		
方針	課題	方向性	総合戦略	強靱化	ビジョン
	アイヌや縄文文化など本道固有の歴史や、芸術、文化など北海道の魅力や、北海道歴史・文化ポータルサイト「AKARENGA(あかれんが)」を活用し、中国語や韓国語など多言語に対応したPR映像などにより、引き続き国内外に発信していくとともに、同様の映像を交通拠点や観光施設等においても発信していく。また、平成27年度に製作した北海道博物館のPR映像、総合展示解説書「ビジュアル北海道博物館」、多言語解説アプリ「ポケット学芸員」、ウェブサイトやツイッターなどを活用して、アイヌ文化や縄文文化などの北海道固有の歴史文化や北海道の自然に関する情報発信機能の強化に努める。				c00111、c00507、c02713、c08203
	魅力的な企画展開催について道民からの期待が高まっていることから、今後、北海道の自然・歴史・文化に関する専門的な調査研究、アルバータ州・サハリン州との共同研究を進め、その研究成果を企画展示に反映させることにより、北海道博物館の情報を発信していく。また、道民参加型の展示、民間企業や地域と連携した企画展示などの企画を通して、地域の博物館を含めた外部との連携強化を進めるとともに、道内の博物館職員を対象とした博物館学系の研修会の実施に向けた検討を進める。				c08201
	北海道博物館の取組としては、一体的な活用に向け、利用者のニーズを把握し、各種事業の企画・運営の見直しを行なうとともに、ハード面(施設・設備)とソフト面(展示・事業)の充実や、諸課題の解決に向けた取組を進める。また北海道立総合博物館の指定管理者との連絡調整会議を定期的実施する中で、北海道博物館の取組についての情報提供を行い、北海道開拓の村、野幌森林公園自然ふれあい交流館の一体的な活用の検討を進める。				c08202
	北海道博物館「赤れんがサテライト」は、展示資料の入替やレイアウトの変更などにより、誘導力のある空間へ改善するとともに、道内博物館の情報も含めた情報発信機能の強化を図る。広報活動については、利用者や直に接する活動を展開する。また、重要課題としてサテライトでの広報が、どれだけ本館への来館に結びついているかを、定量的に把握する手法の確立に努める。				c08204、c08404
	北海道150年事業ワーキングチームに参画し、関係部局と連携し、北海道の歴史・文化・芸術を発信する取組を検討していく。				c08305
	北海道・北東北の縄文遺跡群の世界遺産登録をめざし、関係県・市・町と共同で情報発信等の事業に取り組むとともに、北の縄文道民会議と連携した普及啓発に取り組む。		A4212		C08101

施策名	北海道独自の歴史・文化の発信と継承	施策コード	03	14
-----	-------------------	-------	----	----

Check 施策評価

6 二次評価結果（知事による評価）

改善意見	
------	--

平成28年度 基本評価調書

施策名	北海道独自の歴史・文化の発信と継承	施策コード	03-14
-----	-------------------	-------	-------

Check 事務事業評価 Action

7 二次評価結果（知事による評価）

整理番号	事務事業名	一次評価(平成29年度の方向性)(再掲)						二次政策評価			主な対応	
		重点点検事項			必要な見直し	予算	サービス	方向性	方向性	二次政策評価意見	方向性	H28二次評価意見への対応
		連携事業(整理番号)	終期なし	推進事項								
03100100	野幌森林公園施設整備費(施設建設事業費)					継続(現状維持)	継続(現状維持)	現状維持	現状維持		現状維持	
03100200	野幌森林公園管理費					継続(縮小)	継続(現状維持)	縮小	縮小		縮小	
03100399	野幌森林公園利用指導業務					-	継続(現状維持)	現状維持	現状維持		現状維持	
03100499	野幌森林公園許認可業務					-	継続(現状維持)	現状維持	現状維持		現状維持	
03100500	北海道博物館事業費(情報システム分除く)					継続(縮小)	継続(現状維持)	縮小	縮小		縮小	
03100600	北海道博物館事業費(情報システム分)					継続(現状維持)	継続(現状維持)	現状維持	現状維持		現状維持	
03100700	地域文化発信推進事業費					終了	終了	終了	終了		終了	
03100800	北海道博物館試験研究費					継続(現状維持)	継続(現状維持)	現状維持	現状維持		現状維持	
03100900	北海道博物館管理運営費					継続(現状維持)	継続(現状維持)	現状維持	現状維持		現状維持	
03101000	開拓の村・百年記念塔施設整備費					継続(現状維持)	継続(現状維持)	現状維持	現状維持		現状維持	
03101100	北海道博物館費(施設建設事業費)					継続(現状維持)	継続(現状維持)	現状維持	現状維持		現状維持	
03101200	オホーツク流水科学センター費(管理運営費)					継続(現状維持)	継続(現状維持)	現状維持	現状維持		現状維持	
03101300	オホーツク流水科学センター費(施設建設事業費)					継続(現状維持)	継続(現状維持)	現状維持	現状維持		現状維持	
03102600	世界遺産登録推進費					継続(縮小)	継続(現状維持)	縮小	縮小		現状維持	
03102700	縄文文化の魅力発信事業費					終了	終了	終了	終了		終了	

施策名	北海道独自の歴史・文化の発信と継承	施策コード	03	14
-----	-------------------	-------	----	----

Action 施策・事務事業評価

8 施策評価結果の反映（各部署等が実施）

（1）一次評価結果への主な対応

対応方針	主 な 対 応
	<p><新たな取り組み等 ・ポータルサイト「AKARENGA」を活用し、英語、中国語、韓国語、ロシア語に対応した、本道の歴史・芸術等のPR映像「カルチャーガイド北海道」を放映するとともに、道内空港や観光施設などでも放映し、北海道の文化の魅力を国内外に積極的に情報発信する。 ・今まで接点のなかった大使館や領事館・JICAなどに「ビジュアル北海道博物館」を配布するなど、インバウンドに向けた取組を強化する。 ・「ポケット学芸員」を訪日外国人観光客にも利用しやすくするため、北海道博物館内の無料Wi-Fiを使用出来るように整備したが、今後、同アプリの周知を強化するなど、さらなる利用促進を図る。 ・博物館ウェブサイトの構成を一部刷新し、展示、イベント、新着情報などをわかりやすく紹介する構成としたほか、英語、中国語、韓国語、ロシア語のウェブページを更新し、展示の紹介、交通案内などのコンテンツを追加した。今後もウェブサイトを随時更新し、情報発信機能を強化する。 ・北海道博物館では、ツイッターで、特別展・企画テーマ展等を紹介し、おすすめ資料紹介など学芸員・研究職員の生の声を届ける工夫をしているが、より魅力的な情報を発信するため、今後とも、SNSを利用した情報発信に努める。</p>
	<p>新たな取り組み等 ・28年度は、北海道の自然・歴史・文化に関わる調査研究（8課題）、アイヌ文化に関する調査研究（2課題）を実施したが、専門的な調査研究を進めるとともに、その研究成果を反映した企画展示を実施する。 ・アルバータ州に職員を派遣し、生物学と民族学の共同研究を実施するとともに、サハリン州からは研究者を受入れ、漁業史・考古学の分野での共同研究を実施したが、今後、引き続き共同研究を進めるとともに、その研究成果を反映した企画展示を実施する。 ・道民参加型の展示として、愛好家で結成する「北海道化石会」と連携し、アンモナイトの展示を実施したが、今後、さらに参加団体を募り、地域と連携した企画展示の実施に努める。 ・28年度は、特別展「ジオパークへ行こう！」を道内5地域のジオパークや民間企業と連携し開催した。5地域の博物館やジオパーク推進協議会とは、展示構成の検討及び展示製作を行なったが、29年度は、道内外の博物館や民間企業の協力を得ながら、「北海道と野球」に関する特別展を実施する。 ・28年度は、これまでの研究成果を反映した企画展を3回実施したが、29年度も年数回、企画展を実施し、研究成果を公表する。</p>
	<p>新たな取り組み等 ・28年度は、特別展、企画テーマ展の開催期間に利用者満足度のアンケート調査を実施するとともに、博物館実習のカリキュラムとして、滞在時間やニーズについての来場者調査を採り入れ、受講生である大学生による調査を実施したが、今後も、同様に調査を実施し、利用者ニーズの把握を行う。 ・上記のニーズを踏まえながら、28年度は総合展示の展示入れ替え、クローズアップ展示の更新を定期的に行うとともに、特別展1回、企画テーマ展3回を開催したが、今後も、同様に利用者ニーズを踏まえた展示の実施に努める。 ・28年度は、調査研究成果を活用し、北海道の自然・歴史・文化をより深く学ぶことができる講座・講演会、気軽に学ぶことができる「ちゃれんがワークショップ」、「ちゃれんが子どもクラブ」を計画的・定期的に行うとともに、「ハイライトツアー」（総合展示解説）、「グループレクチャー」を実施、数十種類のキットを使いながら、北海道の自然・歴史・文化を楽しく学べる「はっけん広場」を通年で運営しているが、今後も、引き続き、取組の充実に努める。 ・指定管理者との連絡調整会議を月1回開催し、連絡体制の強化と利用者サービスの向上を図っているが、今後も、引き続き、同会議を開催し、博物館、開拓の村、自然ふれあい交流館の一体的な活用を検討を進める。 ・28年度、野幌森林公園内にある北海道博物館、北海道開拓の村、自然ふれあい交流館の3施設合同のサイトを立ち上げたが、今後も引き続き、当サイトを活用し、一体的な広報を実施する。</p>
	<p>新たな取組等 ・展示資料の入れ替えや、道内博物館紹介コーナーのリニューアル、道内博物館のパンフレット類の閲覧冊子等を作成し、情報発信機能を強化したが、今後、さらに博物館への誘導力を強化するため、多言語でのスマホアプリの活用などを行う。 ・博物館と赤れんがサテライトに整備したデジタルサイネージ（映像表示装置）で北海道博物館のPR映像や、今回初めて作成した特別展「ジオパークへ行こう！」のPR映像は、道内5地域のジオパーク関連施設の情報を発信、イオン北海道株式会社などの民間企業との連携を図り、店舗内でも放映した。今後ともデジタルサイネージを活用し、効果的な情報発信に努める。</p>
	<p>新たな取組等 北海道150年事業ワーキングチームへ参画し関係部局との連携を図るとともに、関係団体等への当該事業の周知等を通して機運の醸成を図ることにより、北海道の歴史・文化・芸術を発信する取組を推進する。</p>
	<p>新たな取組等 ・北海道の縄文文化の魅力や特徴を紹介する映像や小冊子を活用し、国内外に広く発信していく。 ・有識者を招いたフォーラムや「北の縄文道民会議」等と連携したパネル展やセミナーを開催するなど、官民一体となった運動を展開し、世界遺産登録の早期実現を目指した取組を推進する。</p>

(2) 二次評価結果への主な対応

意見区分	主 な 対 応	意見区分	主 な 対 応

平成28年度 基本評価調書

施策名	北海道独自の歴史・文化の発信と継承	施策コード	03	14
-----	-------------------	-------	----	----

Action 施策・事務事業評価

9 事務事業評価結果（方向性）への対応状況（各部局等が実施）

（1）事務事業評価で示した方向性への対応状況

区分 \ 方向性	見直し検討	拡 充	現状維持	縮 小	統 合	廃 止	終 了	合 計
評価結果	事業	事業	10 事業	3 事業	事業	事業	2 事業	15 事業
反映結果	事業	事業	11 事業	2 事業	事業	事業	2 事業	15 事業

（2）次年度新たに実施する事業

次年度新規事業(予定)
1 事業